

【受賞報告】 11th International Conference of Clinical Laboratory Automation and Robotics (Cherry Blossom Symposium 2018)において、附属病院 呼吸器内科・感染症科 糸賀正道助教 が Poster Award を受賞しました

去る平成 30 年 4 月 19 日から 21 日に盛岡市で行われた、11th International Conference of Clinical Laboratory Automation and Robotics (Cherry Blossom Symposium 2018)において、呼吸器内科・感染症科 助教 糸賀正道が「High levels of procalcitonin in a case of pulmonary neuroendocrine tumor」で Poster Award を受賞しました。

このシンポジウムは臨床検査の自動化とロボット化に焦点をあてたもので、日韓をはじめ、欧米各国から参加者が集まる国際会議です。今年のメインテーマは「Clinical Laboratory Automation - A bridge over the next two decades - (臨床検査の自動化 ~次の 20 年への架け橋~)」でしたが、臨床検査自動化の話題以外にも幅広い分野について多くの発表がありました。

今回の発表では、敗血症など重症細菌感染症の血清マーカーであるプロカルシトニン(PCT)が高値を示した肺原発神経内分泌腫瘍の一例について報告しました。本症例では、PCT 上昇が感染症によるものでなく、また非特異的反応でもないことが示され、PCT 産生腫瘍と推定されました。すなわち、血清 PCT 高値が細菌感染だけではなく、腫瘍関連でも起りうることを示唆されました。

今回の症例の後に診断された肺原発神経内分泌腫瘍の症例でも PCT 高値を示す例があり、さらに症例を集積して腫瘍マーカーとしての臨床応用の可能性についても検討していきたいと思えます。

今回の受賞にあたり、ご協力・ご指導をいただいた呼吸器内科・感染症科のスタッフおよび臨床検査医学講座の萱場広之教授に深謝いたします。

